

# 全国調査の結果分析を活用した指導改善の実践例

～4年間の全国調査で正答率が向上している小学校の例～

## 学校紹介

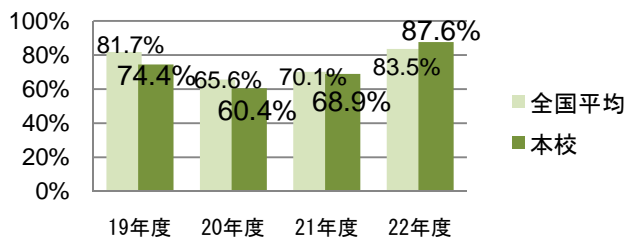
学校種	小学校（明治8年開校）		
学級数 児童数	計10学級 （約210名）	第1学年 1学級（約30名） 第2学年 1学級（約30名） 第3学年 2学級（約40名） 第4学年 2学級（約40名） 第5学年 1学級（約30名） 第6学年 1学級（約40名） 特別支援学級 2学級（3名）	
教職員数	23名	校長・教頭	各1名
		教諭	15名（養護教諭1名を含む）
		非常勤講師	2名
		事務主任	1名
		校務技師・補助員 主任栄養士	2名 1名

### ○学校の特徴

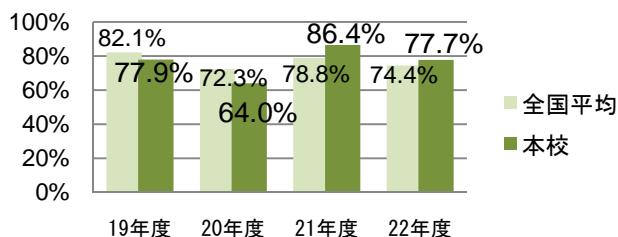
本校の学区は、海運の拠点として発展し、史跡等も多く有する市内に位置し、漁業、農業等が盛んな地域である。本校では、地域の農家と一緒に様々な作物を育てるなどの食農教育を進めたり、地域住民を講師に招いて伝統文化の継承活動を行ったりするなど、地域と密着した学校教育を展開している。

## 全国学力・学習状況調査の結果における特徴

国語Aに係る正答率



算数Aに係る正答率



本校は、平成19年度の全国調査において、A問題・B問題ともに正答率が全国平均を下回っていた。

そこで、まずは基礎的・基本的な知識・技能の定着をより確実なものとするため、学習に対する態度や生活習慣など基盤づくりの見直しなどの取組を進めてきた。

4回の全国調査の結果をみると、左のようにA問題を基礎的・基本的な知識・技能の定着とともに活用する力も着実に向上してきている。

平成21年度からは、児童同士のかかわり合いの中で、自分自身の思いや考えを修正したり、他の考えを付加したりする言語活動を充実させ、活用する力の育成を図っている。

# 全国学力・学習状況調査の結果に寄与したと考えられる取組

## 全国調査の結果分析と対策

平成19年度の全国調査の結果から、基礎的・基本的な知識・技能の定着や学習に対する態度の育成が不十分であることが分かった。このため、早急に学力向上への対策を立てる必要性を感じ、ただちに職員会議で具体的な対応策を検討、指導改善を行った。

本校では、このように全国調査の結果を初年度から活用して学力や学習状況の改善に努め、その後も毎年の調査結果の分析に基づき、児童の実態に合わせた改善を継続して行っている。

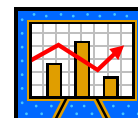
### ○平成19年度全国調査の結果分析と対策（第1段階）

**結果分析** 平均正答率については、各教科とも全国平均を下回っており、基礎的・基本的な知識・技能から確実に定着を図っていく必要がある。

また 質問紙調査においても、学習に対する態度の育成や学習習慣の定着に改善すべき点がみられる。



	国語A	国語B	算数A	算数B
全国	81.7	62.0	82.1	63.6
本校	74.4	52.0	77.9	52.9



#### 対策1 朝勉強の充実（8：10～8：25）

担任が、基礎学力を付けるためのワークシートを作成し、一人一人の児童の様子をみながら、個別に指導を行う。

月	火	水	木	金
計算	漢字	計算	漢字	計算

\*職員会議は、朝ではなく、前日の16時30頃から10分間程度行う。

#### 対策2 学習に対する態度の育成

児童が授業に集中し、学習に積極的に参加するよう、次のような取組に努める。

- ・ 疑問や探究心を湧き立たせるような教材や指導（地域の自然や産業など身近な教材の選択、電子黒板などICTを活用した指導 など）
- ・ 一斉授業における個別指導の充実（習熟度に応じたワークシートの活用や活動形態の工夫 など）
- ・ 教員による評価だけでなく、児童自身による自己評価や、児童同士による相互評価の日常化

#### 対策3 家庭学習の習慣化

家庭学習の時間を10分×学年と設定し、内容の精選、明確な指示、確実な点検を行う。

また、家庭学習の成果を授業で生かしたり、発表したりする場面を設定し、意欲を高める。

例) 授業中に行った音読を、家庭学習で繰り返し練習し、朝勉強の時間に3人グループで音読練習を行う。

これらの練習成果を授業参観で発表し、保護者の家庭学習に対する意識も高める。

〈家庭学習〉  
家のみんなに聴いてもらって、自信になりました。



〈朝勉強〉  
班のみんなと工夫したり練習したりして、信頼が深まりました。

#### 対策4 忘れ物〇作戦

学習習慣の基本として、まずは忘れ物をなくすことを目指し、家庭とも連携し、次のような取組を進める。

- ・ 前日の持ち物確認を徹底する。
- ・ 一日を振り返り、忘れ物の有無を確認するシートを児童に持たせ、毎日、帰りの会で評価させる。継続できるように、評価は3段階の簡単なものとする。
- ・ 学校だより、学級だよりで保護者の意識も高めるとともに、協力を依頼する。

# 全国調査の結果分析と対策（つづき）

## ○平成20年度全国調査の結果分析と対策（第2段階）

**結果分析** 昨年度の全国調査の結果と比較すると、今年度は国語A・B、算数Bに改善が見られるが、個別の設問ごとに見ると、依然として厳しい状況にあるものがある。  
今年度は、調査結果を更に詳細に分析して課題を確認し、19年度に策定した対応策を深化させる必要がある。また、これまで学年、学級ごとに随時行ってきた様々な取組を、組織的・体系的なものとする必要がある。

	国語A		国語B		算数A		算数B	
	H19	H20	H19	H20	H19	H20	H19	H20
全国	81.7	65.4	62.0	50.5	82.1	72.2	63.6	51.6
本校	74.4	60.4	52.0	44.0	77.9	64.0	52.9	48.4

＜具体的な課題の例＞ 算数A：四則演算の・図形やグラフの意味の理解  
国語A：目的に応じて内容をとらえること  
国語B：叙述に即して心情を読み取ること など

### 対策1 朝勉強の見直し

- 算数の課題を踏まえて、図形やグラフに関する基礎的なプリントを充実
- 国語の課題を踏まえ木曜日を読書の時間とし、担当から読書の足跡を確認するプリントを配布
- 個に応じた確実な支援をするために、朝勉強でも習熟度に合わせたワークシートを準備

月	火	水	木	金
計算	漢字	計算	読書	計算

### 対策2 個別指導の徹底

- 一斉授業において個別指導を意識した展開を心掛けるとともに、一人一人の児童について次のことを徹底。
  - 単元開始前におけるレディネスの確認
  - ワークシートを用いた単元ごとの習熟度の確認

### 対策3 学力向上プランの策定

全国調査の結果を踏まえて実施してきた日々の授業の充実策や学習習慣・生活習慣の改善策などを、学校全体として組織的・体系的に推進できるよう、「学力向上プラン」を策定した。

学力向上プランは、本校の取組を、①育成したい力（話し合う力、書く力、読み取る力等）、②学習習慣、③基本的な生活習慣の3つの視点から整理したものであり、年度末には、項目ごとにその後の状況を評価し、次年度のプラン策定に生かせるようにしている。

#### 【第1学年のプランの一部】

	状況・課題	解決の具体策	その後の評価
話し合う力	・みんなの前で話すことが苦手な児童がいる。 ・話し合いが単発的な意見発表で終わる。	・1対1で話し合う機会を多く設定する。 ・相手の話を聞く態度を育成する。	・グループなど少人数での活動を取り入れた事で、発表に対する苦手意識が低くなってきた。

#### 【第5学年のプランの一部】

	状況・課題	解決の具体策	その後の評価
読み取る力	・資料から必要な情報を読み取ることに慣れていない。	・いろいろなタイプの資料を教材として準備する。	・資料から情報を読み取れるようになってきた。 ・多くの情報をまだ適切に整理できない

# 全国調査の結果分析と対策（つづき）

## ○平成21・22年度の取組（第3段階）

**結果分析** 平成21年度から各教科とも正答率が概ね全国平均よりも高くなってきた。また、質問紙調査では、授業以外に1時間以上勉強する児童が、平成19年度の48%から、平成21年度では80%となっており、学習習慣も定着してきたことがうかがえる。

引き続き、基礎学力の定着や自ら学ぶ姿勢の育成に努めるとともに、活用する力を育成する取組についても、充実させていく必要がある。

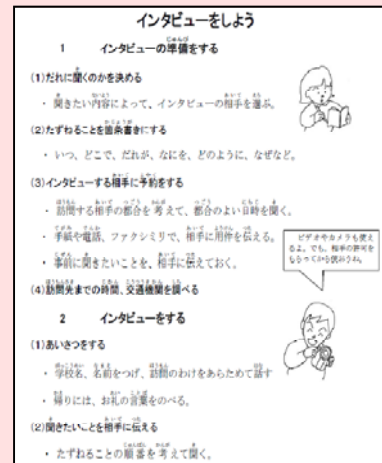
	国語A		国語B		算数A		算数B	
	H21	H22	H21	H22	H21	H22	H21	H22
全国	70.1	83.5	50.7	78.0	78.8	74.4	55.0	49.6
本校	68.9	87.6	53.1	85.3	85.4	77.7	56.7	57.8

### 対策1 学習習慣の深化

徐々に学習習慣が定着してきていることから、今後は、与えられた課題に取り組むだけでなく、児童自らが課題を見付け、解決していく力を育成していく必要がある。

そこで、児童の主体的な学習を支援するため、調べ方や考え方、表現の仕方などを簡潔に示した小冊子を「学び方の手引」として作成・配布し、自ら学習する際に参考にするように指導している。

- ①調べよう：インタビューの仕方、辞書やPC・インターネットを用いた調べ方 など
- ②考えよう：複数の情報や考え方の比較・関連付け、グループやクラス全体で考える際の進め方 など
- ③表現しよう：ノートのまとめ方、絵や表、グラフでの表し方、グループ討議の際の発表の仕方 など



### 対策2 学力向上プランの見直し

平成21年度の全国調査の結果において、課題がみられた点、引き続き指導の強化を図るべき点などについて指導の改善を行うため、設問ごとに詳細に分析した上で、学力向上プランの見直しを行った。

例えば、第3学年の国語では、目的や意図が伝わるように説明することに課題がみられた（H21国語B[4]ニイ）ことを受け、説明に必要な情報を様々な資料から読み取ることが十分にできていないことに原因があると考え、学力向上プランを以下のように改訂した。

	H21 国語	B[4]ニア	B[4]ニイ
全国	50.7	57.3	62.0
本校	53.1	59.2	59.2

#### 【第3学年のプランの一部】

	状況・課題	解決の具体策
読み取る力	・資料から必要な情報を読み取るスキルが十分身についておらず、読み取りにも時間がかかる。	・文章や資料から情報を読み取る活動を意図的に取り入れる。 ・理由を明確にして説明させる。

#### 【改定後】

- ・ 文章やパンフレットなどの非連続テキストから情報を読み取る活動を意図的に取り入れる。
- ・ 複数の情報を関連付けて読み取らせ、その情報を活用するなどして、理由を明確に説明させる。



### 言語活動の充実 ～かかわり合いの中で深める学び～

#### ○「児童同士のかかわり合い」を重視した言語活動の充実

平成19年度から行ってきた指導や学習環境の改善が、徐々に成果となって現れてきたことを受け、活用する力を着実に育成するため、指導を更に見直し、言語活動を充実させることが必要と考えた。そこで、平成21年度から、児童同士の意見交流や発表などを計画的、積極的に取り入れ、「児童同士のかかわり合い」の中で自己評価や相互評価をしながら、学びを深められるような授業を展開している。

具体的には、すべての教科において、ペア、グループ、クラス全体といった様々な形態で意見交流をさせ、自分と違う考えに触れることで意見を修正したり、同じ考えをもったことで互いの考えを深めたりさせている。

#### 【国語科 第3学年】 単元名：サーカスのライオン

この単元では、グループに分かれて、登場人物の心情の変化について意見交流をしたり、心に残った場面を発表したりする活動を通じて、内容のとらえ方や表現方法が多様であることを理解させ、学びを深めさせることをねらいとしている。

##### グループ内の意見交流と発表

- ① 各自に全文を通読させた上で、物語の全体像をつかませる。
- ② 男の子がおりを訪ねてくる場面を取り上げ、ライオンの心情がどのように変化していくのか、それはどこの叙述から分かるのかについて各自に考えさせる。
- ③ グループ内で意見交流をさせ、各自が取り上げた叙述を一覧にまとめる。単に登場人物の心情の変化を読み取るだけでなく、同じ叙述であっても様々なとらえ方があることや、一箇所だけではなく様々な箇所から感じとれることに気付かせる。



▲意見交流の場面

##### 心に残った場面の発表会

- ① 各グループで、発表で取り上げる場面として、物語の中で最も心に残った場面を選ばせ、どのような発表の方法によれば、聞き手に適切に伝わるかを相談させる。  
・音読発表 ・ポスター発表 ・演劇発表 など
- ② 心に残った場面をいかに効果的に伝えていくかについて相談させる。
- ③ 他のグループの発表を見て、取り上げる場面や表現方法の多様さなどに気付かせる。
- ④ 他のグループの発表について、良かった点、悪かった点を簡潔に述べさせる。最後に自分のグループの発表についても振り返らせる。



▲音読発表

##### 心情の変化をテーマにした並行読書

- ① 「サーカスー」と同様に登場人物の心情の変化が特徴的な題材である「手袋を買いに」を単元と並行して読ませる。
- ② 物語の最後の場面における母さんぎつねの言葉など、とらえ方が分かれると思われる場面を取り上げ、「サーカスー」での取組を踏まえた意見交流を行わせる。

## 言語活動の充実～かかわり合いの中で深める学び～（つづき）

### 【算数科 第1学年】 単元名：繰り上がりのあるたし算

算数科では、自分の考え方を式や図に表して発表し合ったり、自分の気づきを模型などの具体物を示しながら説明し合ったりする活動を、学年の発達段階に応じて第1学年から取り入れている。これらは、その目的などに応じて、ペアや小グループなど様々な形態で行う。

次は、第1学年の繰り上がり足し算を学習する場面である。1桁の数字を使った足し算カードを用意し、グループで意見交流をしながら条件に合わせて分類させる。並べた数字のカードから様々な規則を見いださせることで、数字の面白さに気付かせている。

**導入** ① 4人グループになり、足し算カードの中から、「足して11になるもの」をすべて抜き出させる。

② どんなカードが見つかったかを発表させ、黒板上にばらばらに掲示する。

③ どうしたらきれいに並べられるかを相談させる。

どんなカードを見つけたのか発表して下さい。  
きれいに並べたいのだけど、どうしたらいいでしょうか。グループで相談してみましょう。

$$\begin{array}{cc} 9+2 & 2+9 \\ 8+3 & 5+6 \end{array}$$

初めの数を、2、3、4と並べていけばいいと思います。

**展開** ① 実際に並べたカードを見ながら、グループ内で気付いた事を意見交流させる。

② グループごとの気づきを、クラス全体で発表させる。

並べてみて、気付いた事がありますか。

たくさんの発見がありましたね。

左は上から1ずつ数が増えているのに、右は減っています。

途中で数字がひっくり返っています。

**まとめ** ① 教員と児童のやり取りの中で、「足して12になるもの」「足して13になるもの」と、順にすべてのカードを黒板に並べていく。

② 並べたカードにどのような規則があるのかを相談させる。必要に応じて「斜めに見てみよう」、「縦や横に見てみよう」などと着眼点のヒントを与える。

足して12になるカードを探してみましょう。  
先程並べた列の隣に、左側の数字が同じになるように並べてみましょう。  
気付いた事はありませんか。

2+9		
3+8	3+9	
4+7	4+8	4+9
5+6	5+7	5+8
6+5	6+8	6+9

さっきは8枚あったのに、今度は7枚です。

階段みたいできれい。でも足して18になるのは1枚なのね。

斜めに見ていくと、同じ数字が並んでいるんだね。

③ すべてのカードを並べ終わった後で、並べたカードに一定の規則があることやその規則をどのように表現したのかを、児童の気づきを取り上げながら、教員がまとめていく。

④ 自分が頑張ったことや、グループ内で頑張った人について発表させる。

## 言語活動の充実～かかわり合いの中で深める学び～（つづき）

### 【社会科 第3学年】 単元名：私たちの町，みんなの町

本校では、授業のねらいを達成するため、その教科や領域の特性に応じて、児童同士のかかわり合いのほかにも、様々な「かかわり合い」を設定している。社会科においては、自然や歴史・産業などの社会的事象を扱う教科であることから、「社会的事象とのかかわり合い」を十分に深められるような活動を積極的に取り入れている。特に第3学年は地域を学ぶ学年であることから、地域の歴史や産業とのかかわり合いを深められるよう、農家の訪問や史跡散策などの体験的な学習を十分に設定し、学びを深めている。

#### 【社会的事象とのかかわり合い】

体験的な学習により、地域の自然・歴史・伝統文化・産業等とのかかわり合いを深め、学びを深めるとともに、これらの社会的事象が、自分たちの日常生活といかに深く結びついているかを再認識する。

一つ一ついねいにふくろをかぶせて育てます。作っている人の気持ちが変わりますね。



#### 【児童同士とのかかわり合い】

体験的な学習を通して得られた社会的事象についての「気づき」「疑問」「思い・考え方」などについて、児童同士でぶつけ合い、分かち合うことで、更に学びを深めていく。

次は、第3学年で自分たちの住んでいる身近な地域を学ぶ場面である。児童同士とのかかわり合いや社会的事象とのかかわり合いを十分に取り入れている。

<用意する資料> 本市の地図、昔の海岸線が分かる地図、市中心部の航空写真  
市内数か所のバス停の写真、市内の神社の写真（現在のものと明治のもの）など

#### ①驚きや疑問の共有

現在の地図と照らして見ると、驚きや疑問を抱くような名称のバス停や神社の写真を示す。（資料の提示の仕方、順番に工夫が必要）

小グループにさせ、各自が抱いた驚きや疑問について、その根拠となった資料などを示しながら発表させる。

#### ③グループでの疑問解決

共有した疑問について、グループで調べ学習や地域の人へのインタビューを行わせる。



「昔はこんなところまで海だったから「入江」なんだね。」

#### ②確認や発見

事前学習で抱いた疑問を解決するために、実際にバス停や神社を訪れ、確認させる。



「このバス停は、町の中心にあるのになんで「入江」という名前なんだろう。」

#### ④学習の振り返り

調べた内容を「まちのひみつマップ」にまとめさせ、クラスで発表させる。



▲発表会の様子

各自が発見したことや疑問に思ったこと、グループで取り上げたことなどを振り返り、自己評価をノートにまとめさせる。

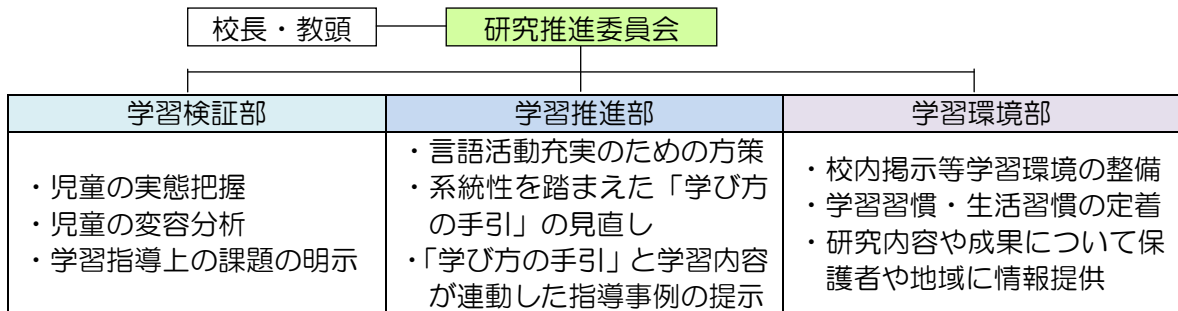


## 共通理解を深め、学校全体で取り組むための組織編成

### ○学力向上に向けた取組を推進するための組織編成

本校では、これまでに述べたような取組を推進するため、以下のような3つの部を組織し、すべての教員がいずれかの部に所属することとしている。これにより、校内全体で取組の趣旨や意義を共有した上で、学校全体の指導力の向上に努めることができる。

教務主任と研究主任および各部の代表で構成する「研究推進委員会」は、研究のテーマを決定したり、各部で検討された内容を取りまとめ、職員会議や研修だよりを通じて全体に周知したりする役割を担っている。



### ○校内授業研修

各部における取組のねらいや課題について、研究推進委員会が計画する校内授業研修を通じて教職員間で共通理解を図っている。授業研修には、教育委員会の指導主事や他校の校長などを外部講師として招聘し、研究の方向性について助言を得ている。

#### ①公開授業・協議会の開催

- ・ 公開授業による授業研修は、年4回開催し、全校職員が参加する。学校教育目標の実現状況や全学年で共通のテーマなどについて「授業評価シート」を活用した相互評価を行う。
- ・ 公開授業後の協議会はワークショップ形式で行い、参観時に記入した「授業評価シート」を参考に、活発な意見交換を行う。(協議会の論点の例)



▲協議会の様子

ア) 本日の授業における「かかわり合いの場面」の設定は適切であったか。

イ) 「言語活動の充実」を図るための手立ては適切であったか。

#### ②ブロック別授業研修

年5回、3つのブロック(下学年(1~3学年)、上学年(4~6学年)、特別支援)に分かれて授業研修を実施し、全学年で共通のテーマをブロックごとに掘り下げている。

その際には、そのブロックの教員のみならず、他のブロックの教員もできる限り参加することで、他学年等の視点からの意見も得られるようにしている。

#### ③互見授業

各教員がテーマを設定し、教科・領域に限らず、様々な教育活動における指導場面や活動の工夫について提案する。提供する場面は、朝の学級活動における話合いや授業の導入部分だけでもよいこととし、気軽に、より多くの場面を見せ合えるようにしている。

互見授業計画			
実施日	提案者	教科・領域等	提案の視点
10月18日	教頭先生	国語科	俳句指導における表現力の育成
10月21日	〇〇教諭	朝の学級活動	授業以外の時間における言語活動の充実
11月5日	□□教諭	社会科	「古い道具と昔の暮らし」の導入の工夫

▲互見授業計画の一部



▲互見授業の様子